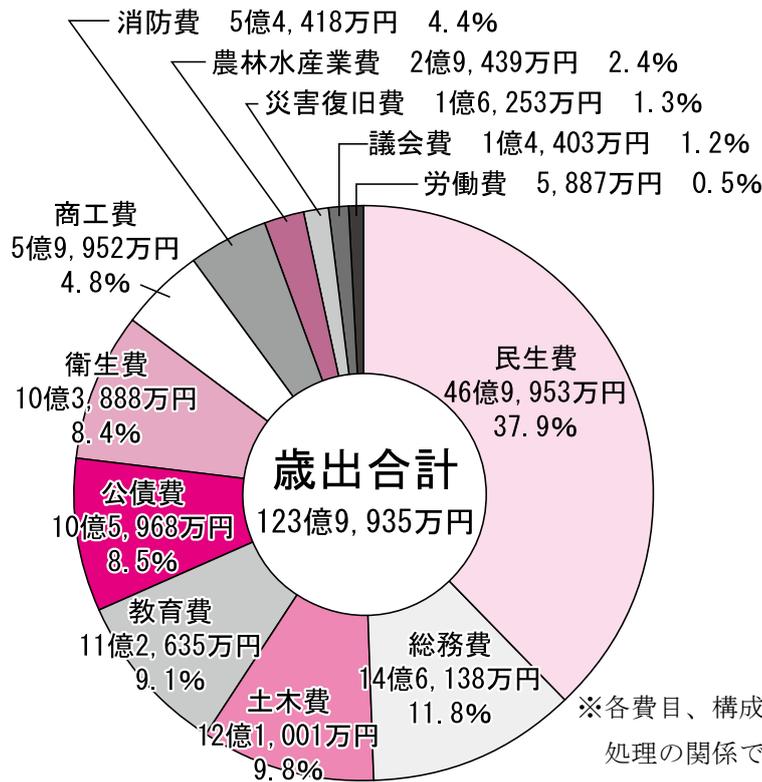
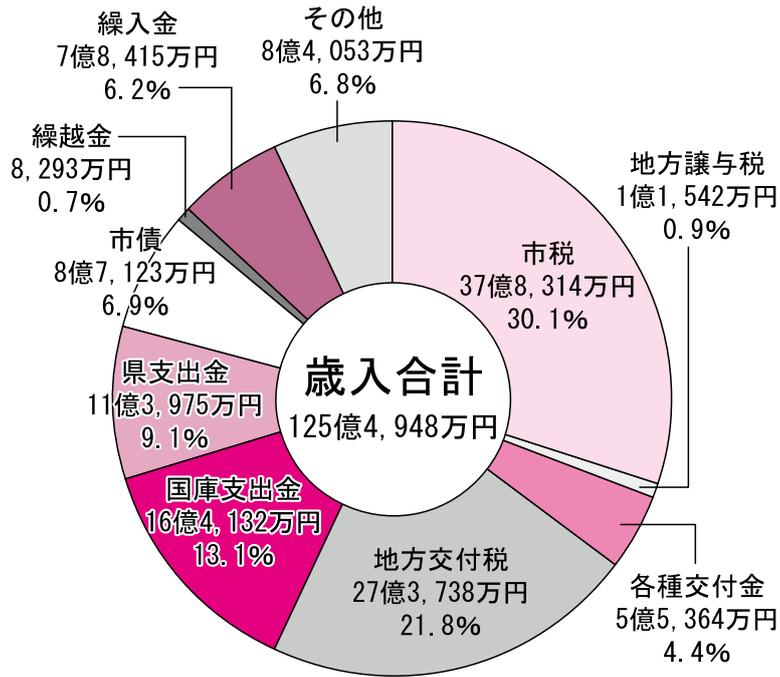


竹原市の財政事情

平成28年度決算及び平成29年度上半期予算執行状況

問い合わせ
財政課財政係
☎ 2217731

▼図1 平成28年度の一般会計決算状況



※各費目、構成比の合計は、端数処理の関係で全体の計と一致しない場合があります。

一般会計決算状況

平成28年度一般会計決算額は、歳入125億4,948万円で、前年度(125億7,490万円)より2,542万円(0.2%)減少し、歳出123億9,935万円で、

前年度(124億5,247万円)より5,312万円(0.4%)減少しています。

また、翌年度に繰り越す財源を除いた**実質収支**(※P11この言葉??参照)は、1億2,095万円の黒字となっています。

【歳入】

歳入の主なものとして、市税は37億8,314万円で、前年度(37億2,586万円)と比較して5,728万円(1.5%)の増加となっています。

地方交付税は、27億3,738万円で、前年度(27億4,118万円)と比較して、380万円(0.1%)減少しています。

市債は、8億7,123万円で、前年度(13億9,857万円)と比較して、5億2,734万円(37.7%)

【歳出】

減少しています。

歳出の主なものとして、衛生費は10億3,888万円で、広島中央環境衛生組合負担金等の増加により、前年度(9億3,215万円)と比較して、1億673万円(11.4%)増加しています。

商工費は、5億9,952万円で、工場等立地促進事業経費等の増加により、前年度(4億9,702万円)と比較して、1億250万円(20.6%)増加しています。

教育費は、11億2,635万円で、忠海中学校区小中一貫校施設整備事業等の減少により、前年度(17億612万円)と比較して、5億7,978万円(34.0%)減少しています。

財政構造の弾力性

財政構造の弾力性を示す**経常収支比率**(※この言葉??参照)は、平成28年度は99・8%で前年度(97・1%)と比較して、2・7ポイント上昇しています。臨時財政対策債等経常的収入の減少が要因となっています。

基金残高の減少

平成28年度末時点の基金残高は28億8,531万円で、前年度(35億1,852万円)と比較して、6億3,321万円(18・0%)減少しています。減少の主な要因は財政調整基金、都市整備基金の取り崩しによるものです。

市債残高の減少

平成28年度末時点の市債残高は、116億5,227万円で、前年度(117億3,302万円)と比較して8,075万円(0・7%)減少しています。減少の主な要因は、これまで借り入れた市債の元金償還額が市債発行額と比べ多かったことによるものです。

持続的な財政運営に向けて

今後も人口減少・少子高齢化の進行による社会保障関連経費や、老朽化した施設等に対応する経費の増加が見込まれています。限られた財源で最大の効果が出るよう創意工夫のもと、住みよさを高めるための効果的な施策に取り組んでいきます。

この言葉??

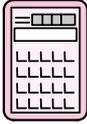
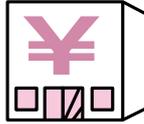
○実質収支

形式収支(単純に歳入総額から歳出総額を除いたもの)から翌年度に繰り越すべき財源を控除した決算額。実質的な収入と支出の差額を示すものです。

○経常収支比率

財政構造の弾力性を示す指標。この比率が高いほど経常的経費が占める割合が高く、臨時的な財源需要に使用できる一般財源が少ないことを示します。

住民一人当たりの使い道は?

民生費 177,020円 	総務費 55,047円 	土木費 45,578円 	公債費 39,916円 	教育費 42,427円 	衛生費 39,132円 
消防費 20,498円 	商工費 22,582円 	農林水産業費 11,089円 	労働費 2,218円 	議会費 5,425円 	災害復旧費 6,122円 

平成28年度末人口26,548人で算出。

合計額 467,054円

▼表1 平成28年度の特別会計決算

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	39億8,213万円	39億2,887万円
貸付資金	1,172万円	1,172万円
港湾事業	4,294万円	3,326万円
公共下水道事業	6億3,202万円	6億3,202万円
公共用地先行取得事業	0円	0円
介護保険	32億2,991万円	31億3,547万円
後期高齢者医療	4億4,069万円	4億3,945万円

特別会計の決算状況は、表1のとおりです。

特別会計決算状況

財政健全化判断比率の状況

財政健全化判断比率については、表2のとおりです。

▼表2 健全化判断比率

健全化判断比率	平成28年度指標	平成27年度指標	早期健全化基準	財政再生基準
①実質赤字比率	赤字なし※	赤字なし※	(14.01)	(20.00)
②連結実質赤字比率	赤字なし※	赤字なし※	(19.01)	(30.00)
③実質公債費比率	8.1	7.5	(25.0)	(35.0)
④将来負担比率	60.7	45.2	(350.0)	—

※実質赤字額及び連結実質赤字額はないため、赤字なしと記載しています。

※①～④の用語の説明は「この言葉??」をご覧ください。

この言葉??

①実質赤字比率

一般会計等についての赤字額を標準財政規模で除したものを。

②連結実質赤字比率

市の全ての会計の赤字額と黒字額を合算して、その赤字額を標準財政規模で除したものを。

③実質公債費比率

一般会計等の支出のうち、公債費や公債費に準じた経費（公債費にあてるための繰出金等）を標準財政規模で除したものを。

④将来負担比率

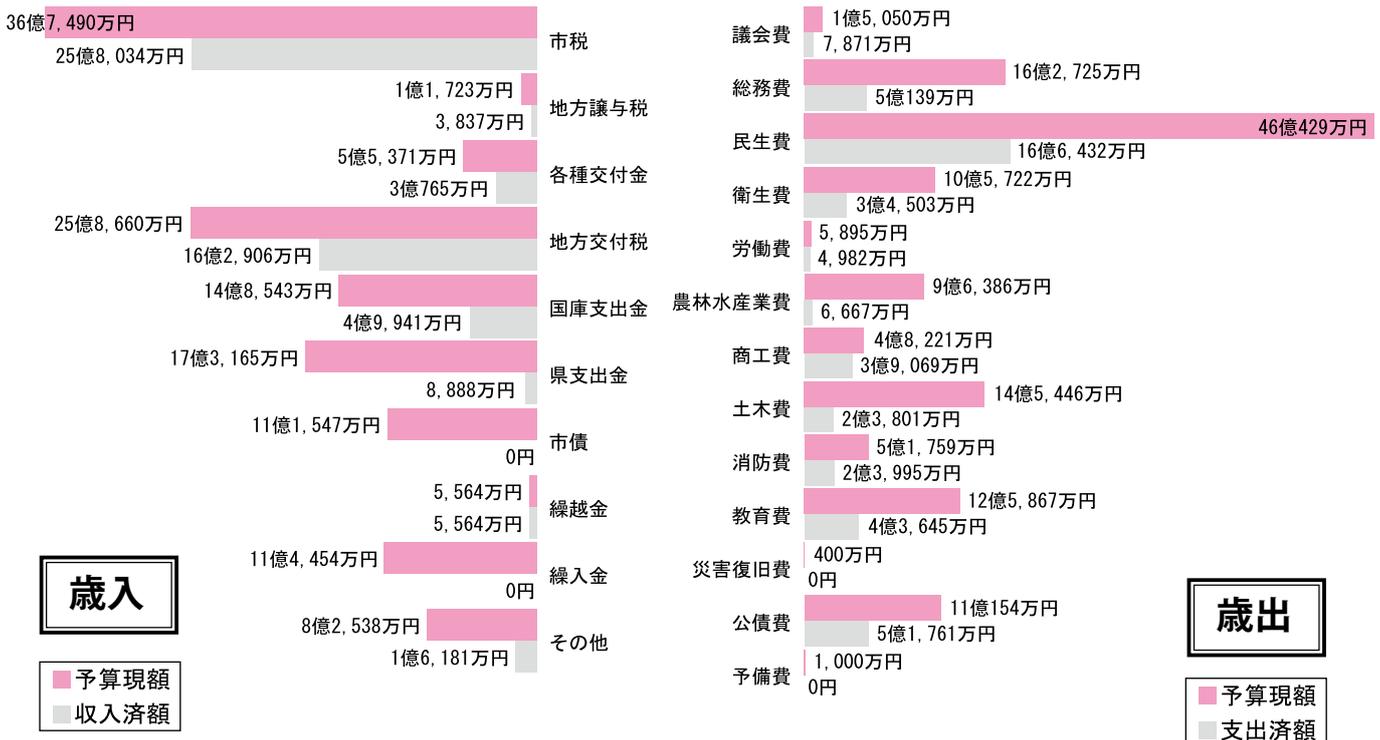
一般会計等が将来負担することとなっている実質的な負債（地方債償還や退職手当等）から、負債の償還に充当可能な基金等の残高を控除したものを標準財政規模で除したものを。

平成29年度9月末現在の一般会計予算額は、132億9,054万円で、収入済額は53億6,115万円（執行率は40.3%）、支出済額は45億2,865万円（執行率は34.1%）となっています。一般会計の款別予算執行状況及び各特別会計の予算執行状況は図2及び表3のとおりです。

平成29年度上半期の予算執行状況

健全化判断比率は、それぞれ財政再生基準、早期健全化基準が設けられており、これらの基準を上回った団体は、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。竹原市はいずれの指標も基準を下回っています。

▼図2 平成29年度上半期の一般会計予算執行状況



▼表3 平成29年度上半期の特別会計予算執行状況

会計名	予算現額	収入済額	収入率	支出済額	執行率
国民健康保険	40億7,410万円	14億3,274万円	35.2%	16億4,363万円	40.3%
貸付資金	912万円	385万円	42.2%	368万円	40.4%
港湾事業	4,079万円	2,487万円	61.0%	1,476万円	36.2%
公共下水道事業	9億4,809万円	2,854万円	3.0%	1億6,612万円	17.5%
公共用地先行取得事業	1,000円	0円	0.0%	0円	0.0%
介護保険	33億3,213万円	13億3,068万円	39.9%	13億2,725万円	39.8%
後期高齢者医療	4億4,624万円	1億4,639万円	32.8%	1億9,324万円	43.3%

水道事業会計

平成28年度の決算

水道事業の会計は、事業経営に伴う収益的収入及び支出と、水道施設耐震化工事・老朽管更新事業や、企業債の償還に要する資本的収入及び支出から構成されています。

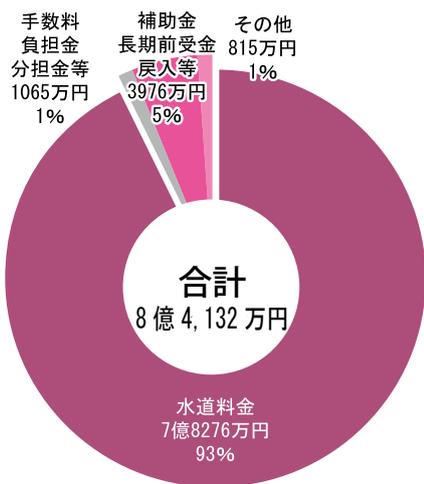
●収益的収支（消費税抜き）

収入総額 8 億 4, 132 万円
 支出総額 7 億 2, 690 万円
 対し、支出総額 7 億 2, 690 万円に、差引当年度純利益 1 億 1, 443 万 3, 173 円となりました。この純利益は、水道施設更新・耐震化等の財源として活用します。

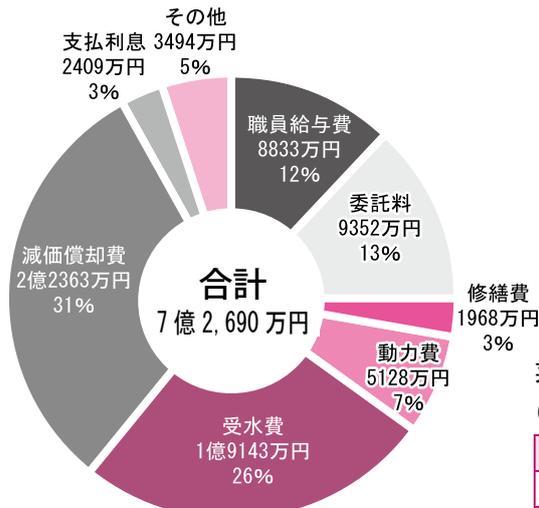
●資本的収支（消費税込額）

収入総額 2, 927 万円
 支出総額 2 億 3, 774 万 1, 330 円で、差引不足額については、損益勘定留保資金（収益的支出の現金支出を伴わない減価償却費などの資金）などで補てんしました。

収益的収入



収益的支出

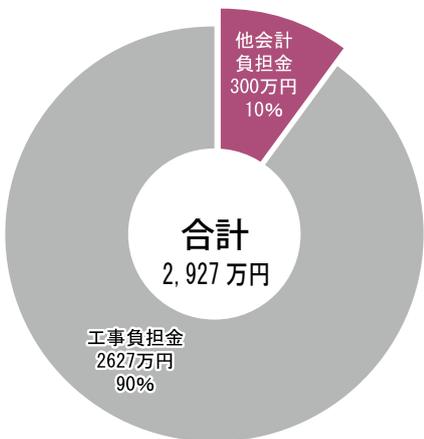


業務量

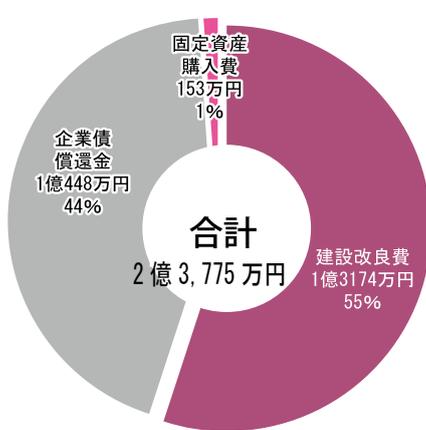
(平成29年3月31日現在)

給水人口	26,373人
給水戸数	12,410戸
水道普及率	99.3%
有収率	85.5%
年間総給水量	5,854,028 m ³
1日最大給水量	18,105 m ³
1日平均給水量	16,038 m ³

資本的収入



資本的支出



この言葉??

- ①給水人口
水道により給水を受けている人口
- ②水道普及率
市の人口に対する給水人口の割合
- ③有収率
給水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合
- ④年間総給水量
1年間で市内に送り出した水量

平成29年度水道事業会計上半期の予算執行状況

□ 予算額 □ 収入済額 □ 支出済額

収入	区分	支出
10億6,092万円	収益的 収支	8億576万円
4億9,265万円		2億1,529万円
4,566万円	資本的 収支	3億7,343万円
1,400万円		9,331万円

問い合わせ 水道課庶務係 ☎ 22-7768